

岩手県感染症週報

平成27年第20週(5月11日～5月17日)

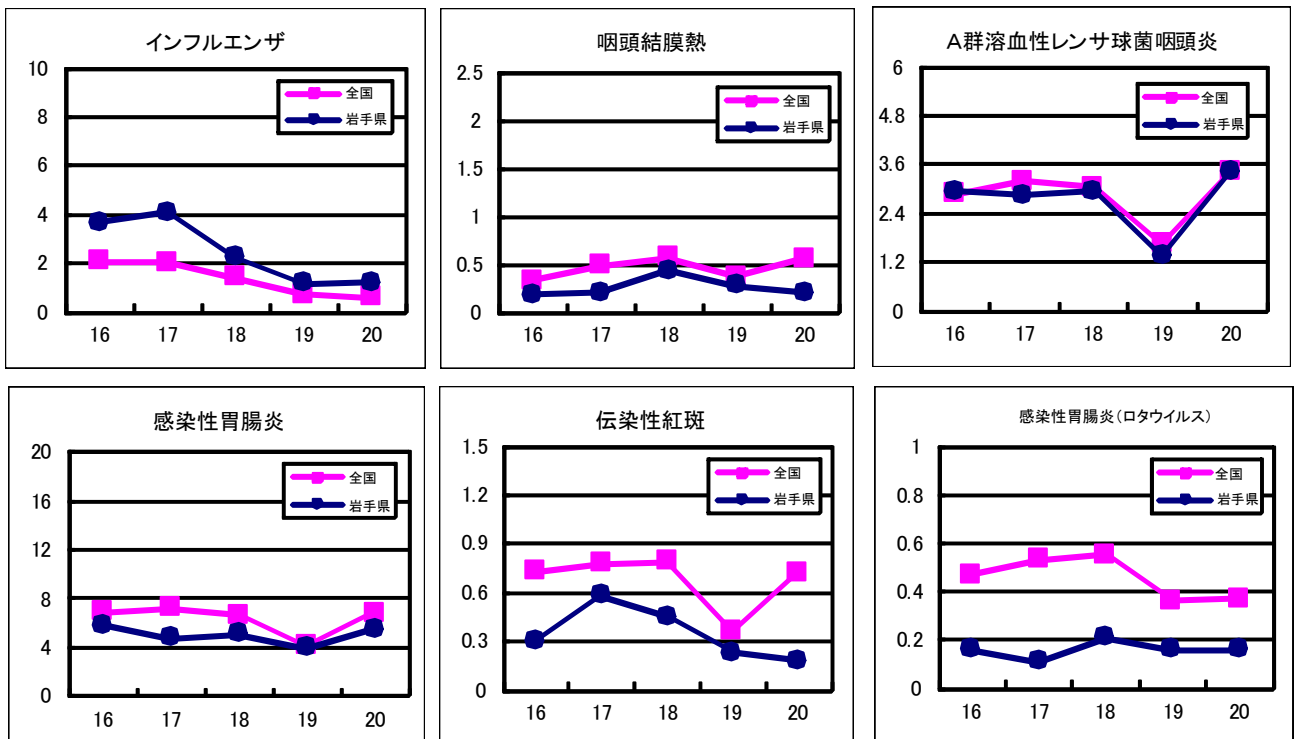
岩手県感染症情報センター

第20週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が7例ありました。このうち6例が潜在性結核の報告です。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症の患者の報告が、盛岡市より2例ありました。患者は2例とも男性で50歳代および60歳代です。主症状は肺炎等で、特有な症状がないので他の疾病との鑑別が必要となります。疑わしい症状がある場合には、早めに受診しましょう。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・溶連菌咽頭炎は、例年に比較して報告数が多くなっています。地区別では盛岡市、県央、中部、奥州および二戸地区と県内陸部が多くなっています。年齢別では6、7歳が多く、30%以上を占めています。症状は、突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛です。感染後、急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌薬内服が必要です。通常患者との接触により伝播するので、予防には患者との濃厚感染を避けること、うがいや手洗いの励行が重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、前週より増加しました。例年、冬から春にかけてはノロウイルスが原因の感染性胃腸炎が多く、初夏にかけてはロタウイルスなどの胃腸炎ウイルスが原因となることが多くなっています。予防対策は、すべてのウイルス性胃腸炎に共通です。流水と石けんによる手洗いや、患者の汚物の塩素系薬剤による適切な処理などが重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		16	17	18	19	20		
インフルエンザ	岩手県	3.65	4.06	2.25	1.17	1.2	→	☆
	全国	2.06	2.02	1.43	0.71	0.59		
RSウイルス感染症	岩手県	0.15	0.13	0.23	0.15	0.1	→	☆
	全国	0.25	0.22	0.17	0.1	0.1		
咽頭結膜熱	岩手県	0.18	0.2	0.43	0.28	0.2	→	☆
	全国	0.33	0.48	0.57	0.37	0.56		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.93	2.85	2.93	1.33	3.43	↗	☆
	全国	2.87	3.18	3.03	1.64	3.43		
感染性胃腸炎	岩手県	5.78	4.75	5.05	3.9	5.5	↗	☆
	全国	6.84	7.19	6.6	4.07	6.76		
水痘	岩手県	0.28	0.55	0.53	0.35	0.4	→	☆
	全国	0.4	0.46	0.5	0.44	0.5		
手足口病	岩手県	0	0.05	0.03	0	0.33	→	☆
	全国	0.77	1.06	1.15	0.76	1.08		
伝染性紅斑	岩手県	0.3	0.58	0.45	0.23	0.18	→	☆
	全国	0.73	0.78	0.79	0.36	0.72		
突発性発疹	岩手県	0.5	0.53	0.43	0.25	0.45	→	☆
	全国	0.57	0.62	0.61	0.42	0.64		
百日咳	岩手県	0	0.03	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.05	0	0.13	0.13	0.18	→	☆
	全国	0.07	0.1	0.14	0.09	0.19		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.05	0.05	0.1	0.05	0.08	→	
	全国	0.39	0.34	0.41	0.33	0.41		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.43	0.21	0.29	0.43	0.21	→	☆
	全国	0.44	0.49	0.56	0.41	0.59		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.03	0.04	0.03	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.26	0.32	0.11	0.11	0.42	→	☆
	全国	0.24	0.28	0.26	0.22	0.25		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0.02	0.02	0.02	0.02		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.16	0.11	0.21	0.16	0.16	→	☆
	全国	0.47	0.53	0.55	0.36	0.37		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	2	1	4	4	8		
	全国	89	72	59	45	42		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※中東呼吸器症候群 (MERS) 及び鳥インフルエンザ (H7N9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					累計	全国	
		16	17	18	19	20		20	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (0)	6 (2)	9 (3)	2 (1)	7 (6)	82 (31)	367	8411
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	2	46
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	1	38	383
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	19
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	13
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	2	1	73
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	5	113
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	7
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	3
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	7
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	1	5
	つつが虫病	1	0	0	0	0	1	5	37
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	83
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	4	14
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	9	
野兎病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	1	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	2	2	13	388	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	4	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘 (入院例)、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	岩手県					全国		
		16	17	18	19	20	累計	20	累計
五類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	1	0	0	2	8	372
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	3	77
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	0	27	446
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	1	4	208
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	2	62
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	190
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	18	488
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	3	31
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	96
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	15
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	4	57	1087
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	1	3	103
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	31	741
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	46
	破傷風	0	0	0	0	0	1	2	28
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	20
	風しん	0	0	0	0	0	0	3	75
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	18	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	7	

今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ (ダニの一種) の幼虫の刺咬により感染します (図1)。

岩手県での発生状況ですが、春から夏と、秋から冬にかけて2つの発生のピークがみられます (下グラフ)。また、全県内で発生しています。

ツツガムシの生息しているような場所 (野山や田畑、河川敷等) に立ち入る場合には、肌の露出を少なくして、防虫剤 (ある程度効果が見込まれる) を適宜使用しましょう。帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで、ダニを洗い流すことも大切です。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は発熱、刺し口、発疹が主要症状です。つつが虫病は適切な治療を早期に受けることが重要です。野外での活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診しましょう。野外での活動のことを医師に伝えることも大切です。

参考：国立感染症研究所

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

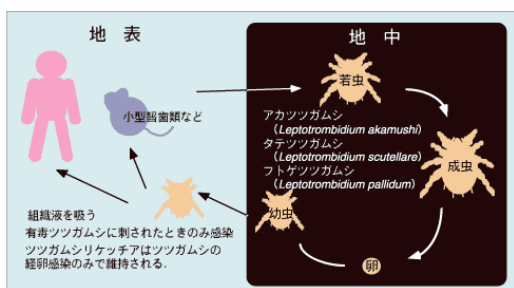
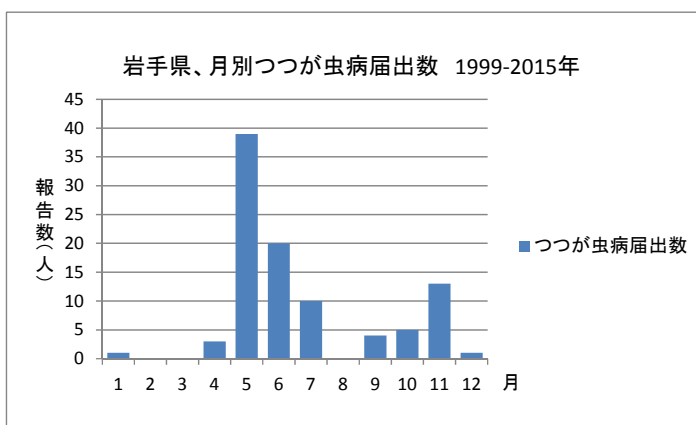


図1. ツツガムシの生活環

図1 ツツガムシの生活環
—国立感染症研究所HPより—



今注目の感染症 (つづき)

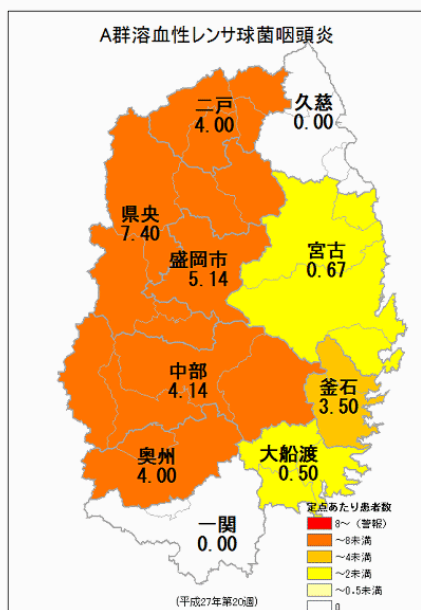
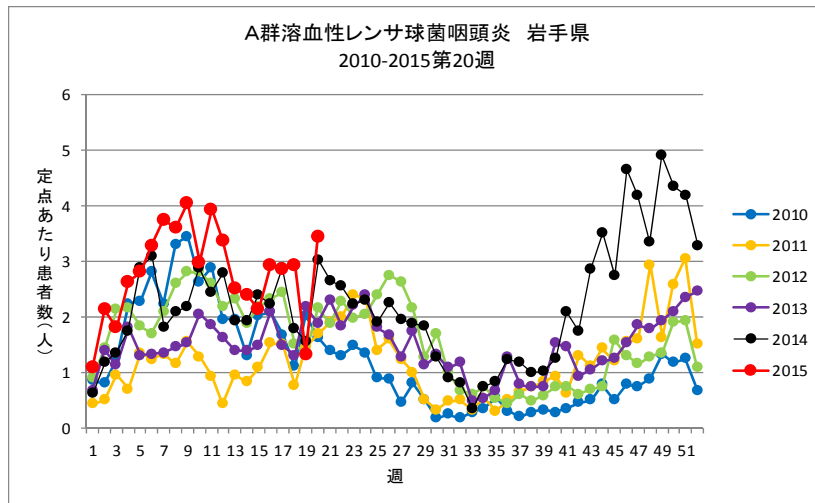
A群溶血性レンサ球菌 (溶連菌) 咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好の疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

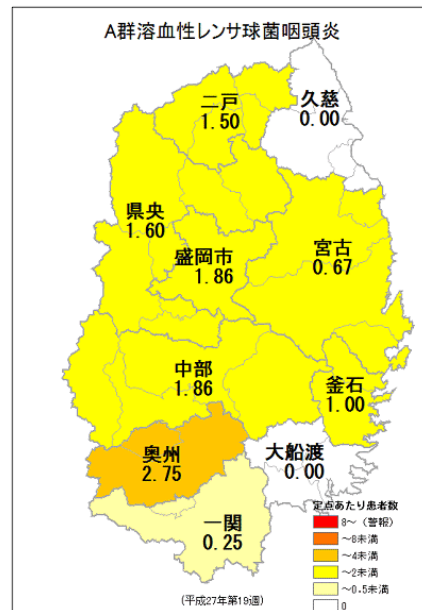
感染経路は、ヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれており、昨年盛岡市で食中毒事件が1件発生しました。

予防には、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つのピークがあります。2015年は第7週(2月中旬)から例年に比べて患者報告が多くなっています。第20週は、県内陸部からの報告が多くなっています。春から初夏にかけての流行に今後とも注意が必要です。



第20週



第19週

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

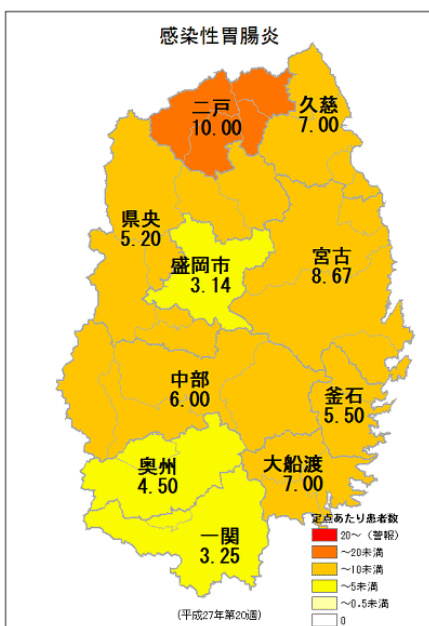
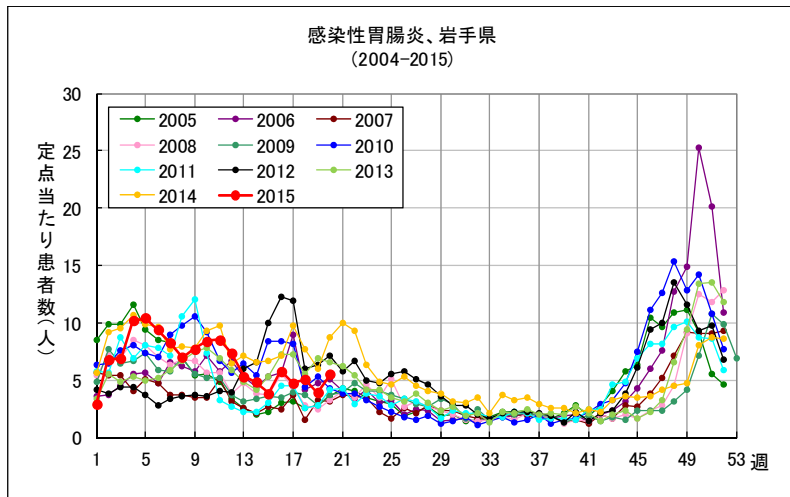
感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年の流行では、患者からは流行の前半はノロウイルスが、後半はロタウイルスが多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年、10月から12月(第40週から第52週)にピークを迎えます。2014年は年末までは報告数の少ない状況で推移していましたが、2015年の4週目に増加をはじめ、やや報告数の多い状況が続きました。第11週以降発生が少ない状況が続いておりませんが、例年、春から初夏にかけても報告数が多くなるので、今後とも注意が必要です。

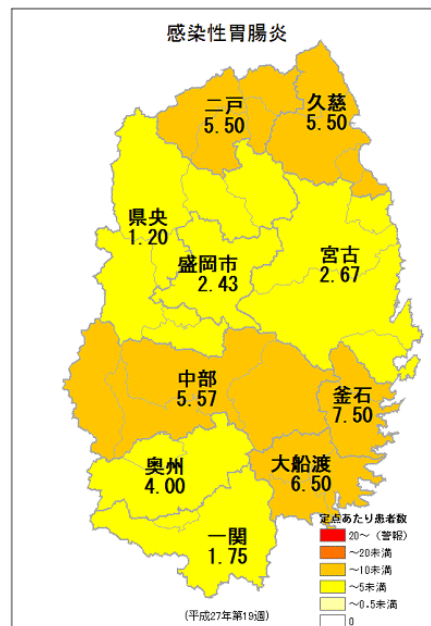
感染性胃腸炎の原因となるウイルスの感染経路は、主に経口感染です。感染力が強いため、保育園や幼稚園など集団生活の場では注意が必要です。予防には、調理前、食事前、用便後に石けんを用いた十分な手洗いと、塩素系薬剤による患者汚物の適切な処理、食品の十分な加熱(85～90℃で90秒以上)が重要です。

厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



第20週



第19週

病原体検出情報

- ・この週に病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週に集団発生情報はありません。

医療機関からの情報

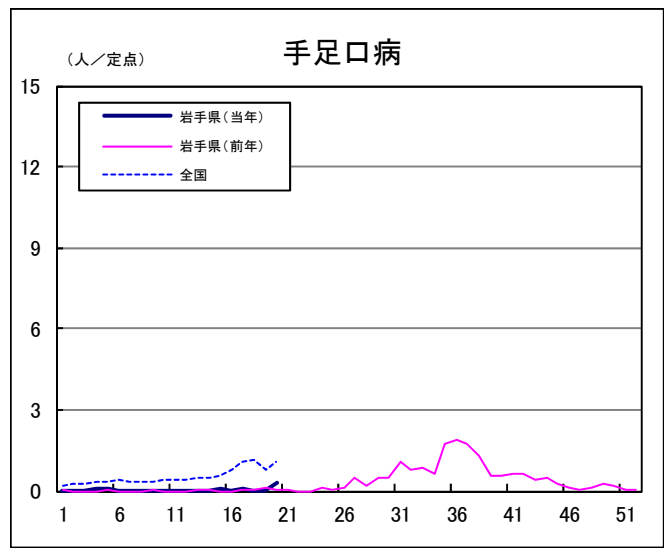
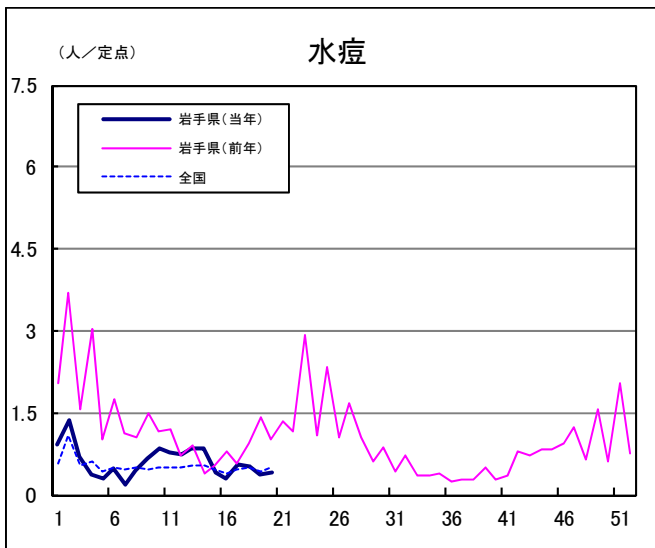
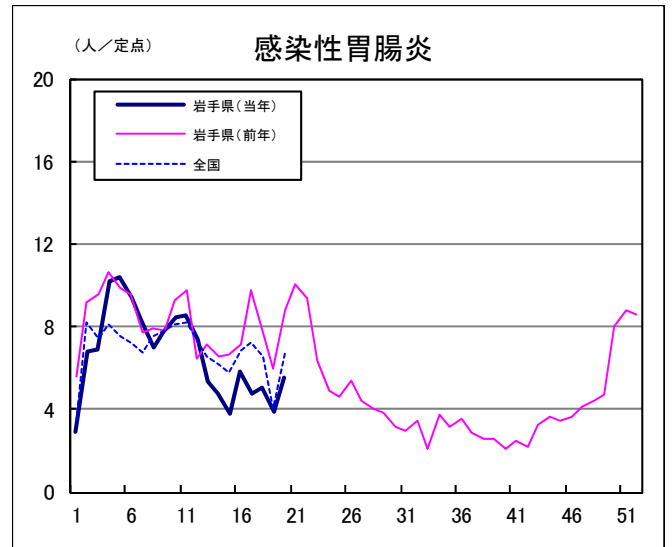
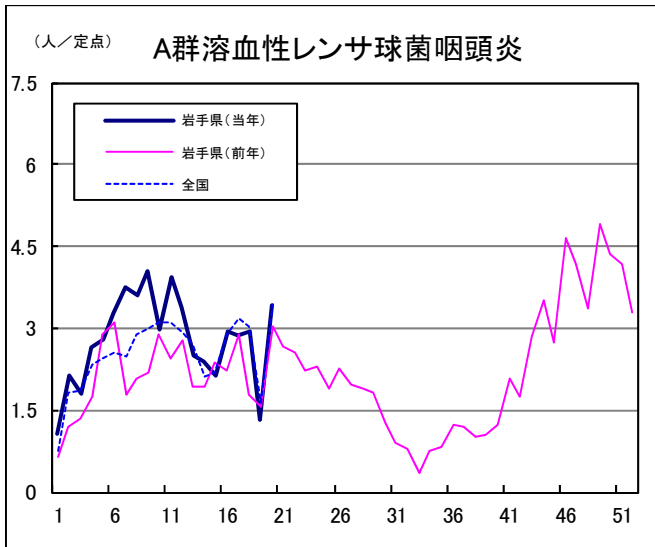
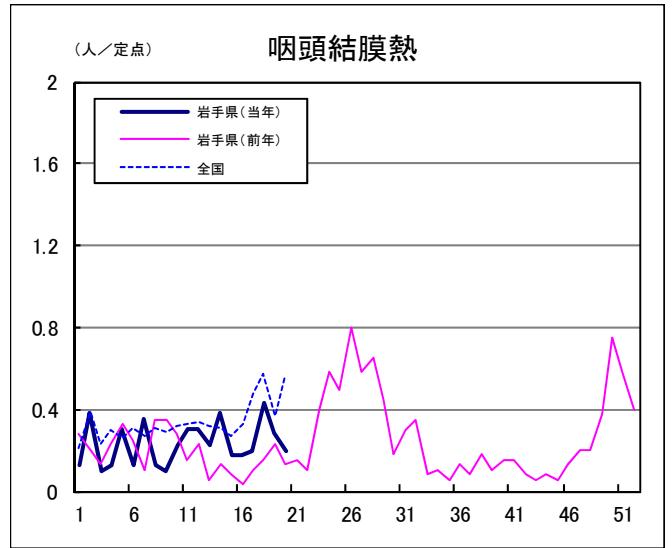
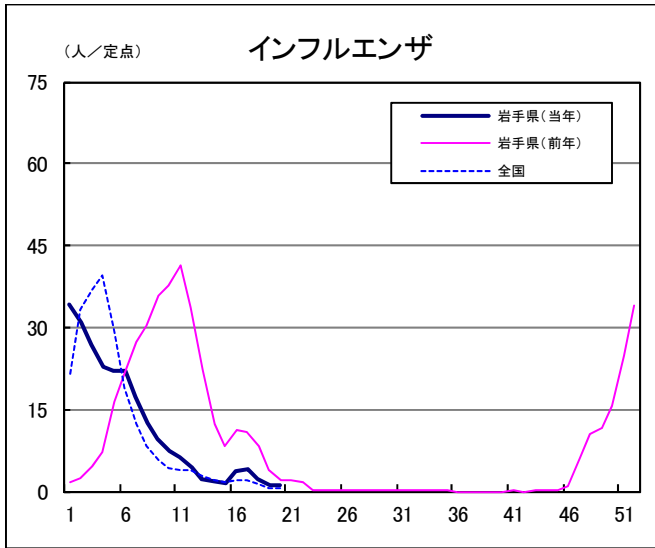
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

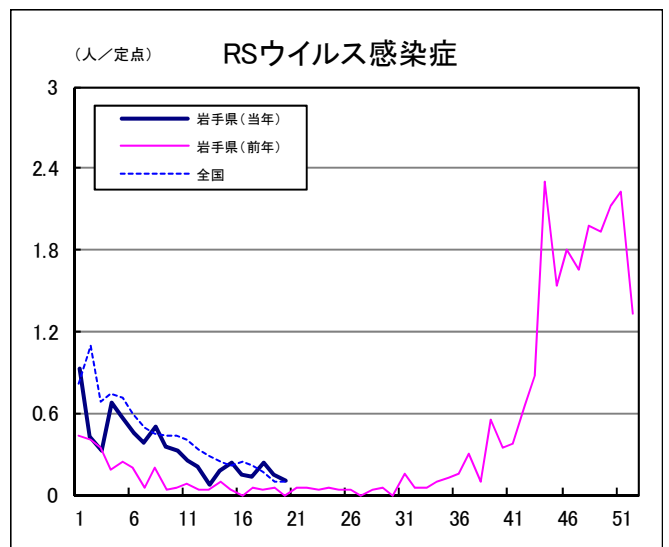
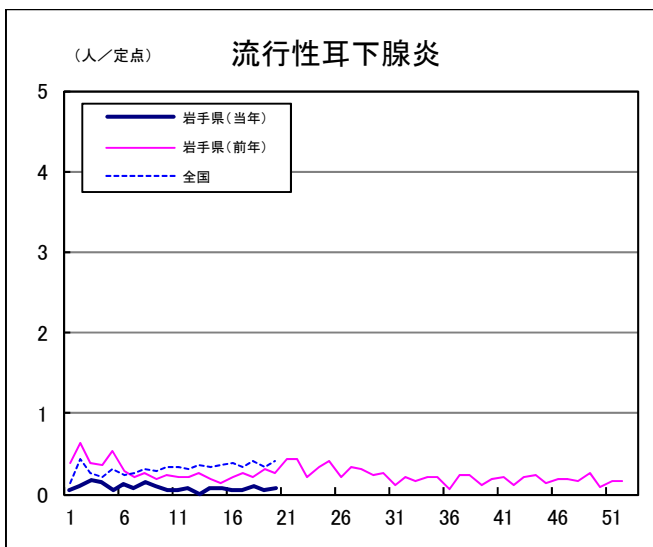
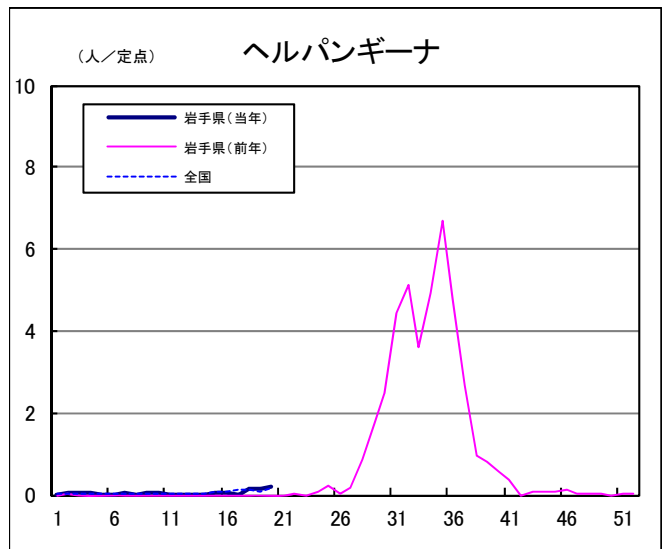
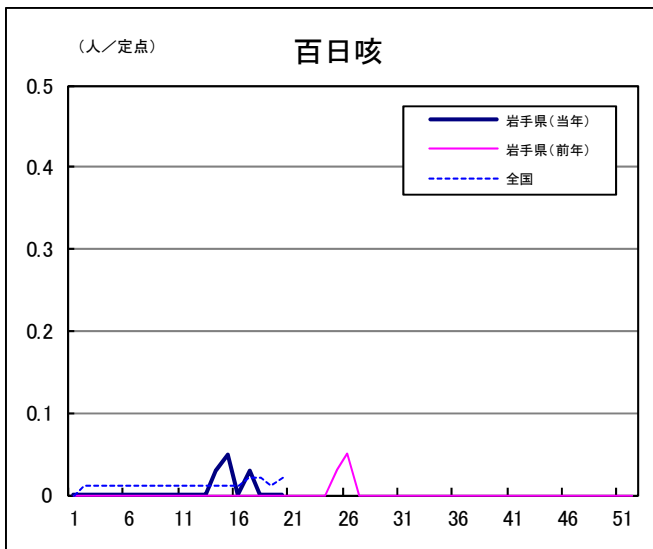
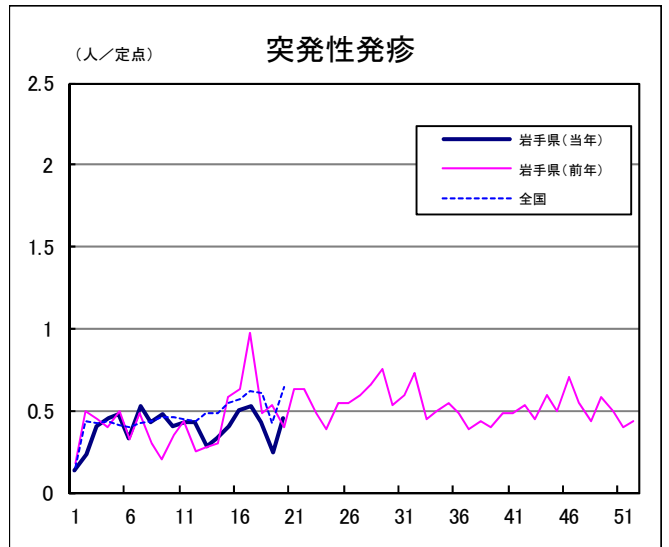
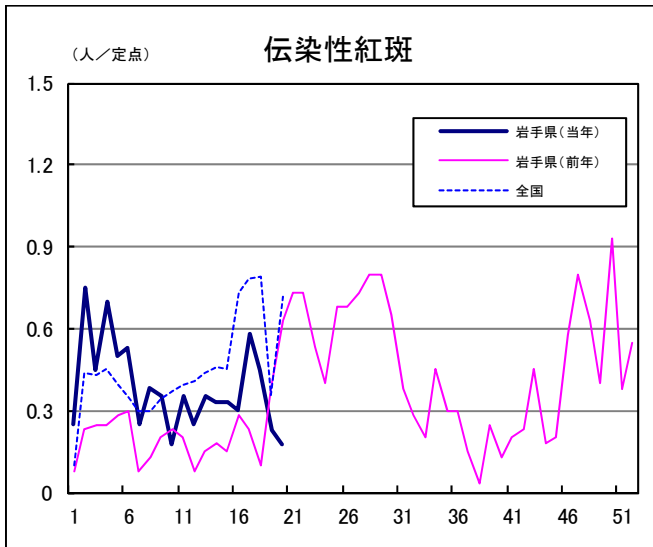
Q & A

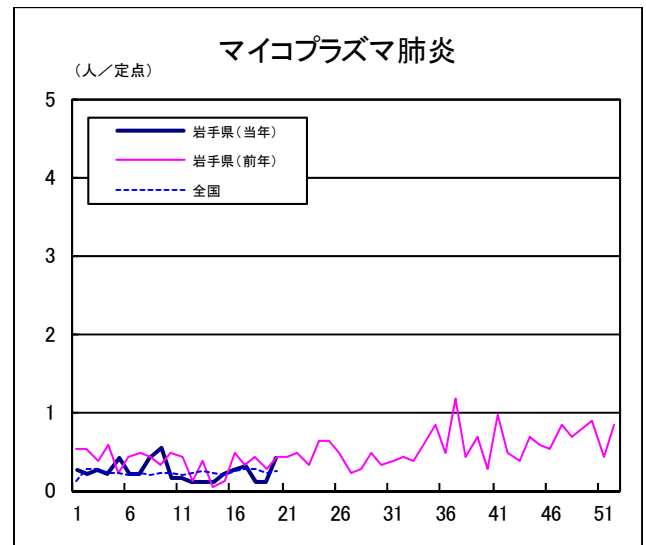
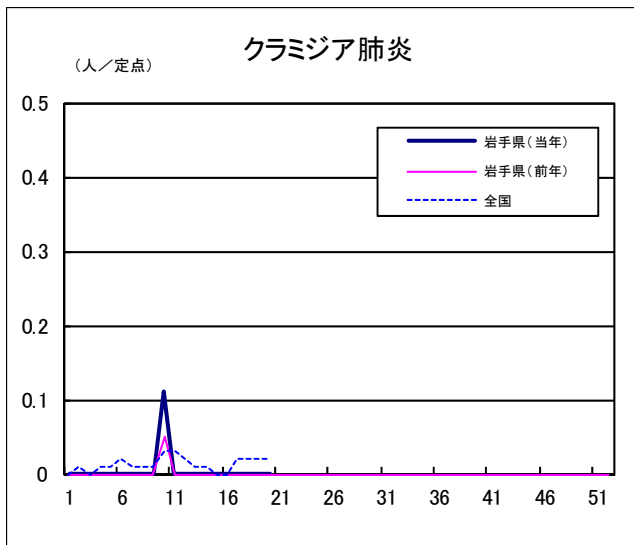
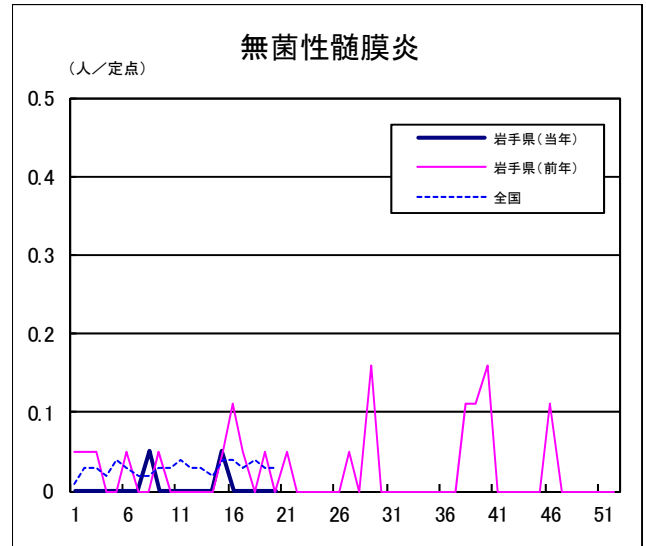
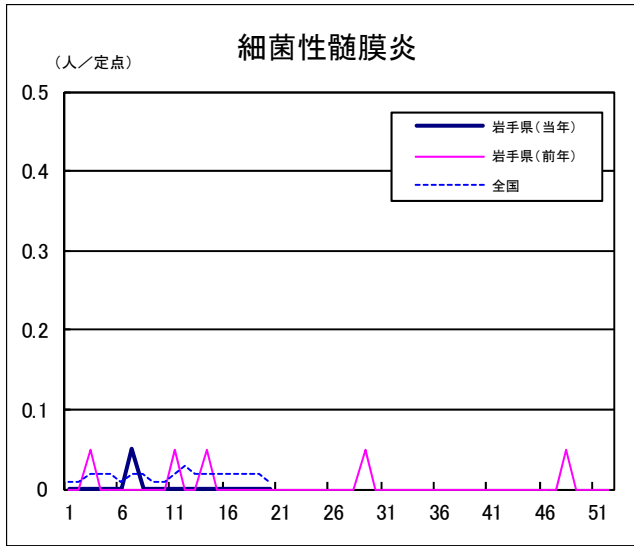
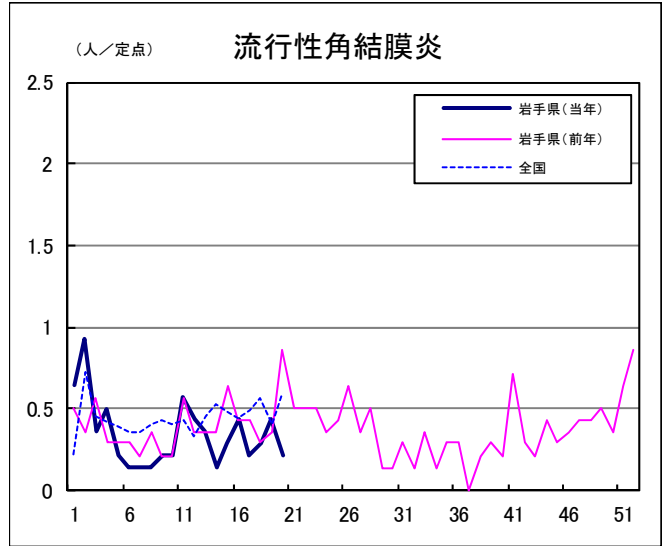
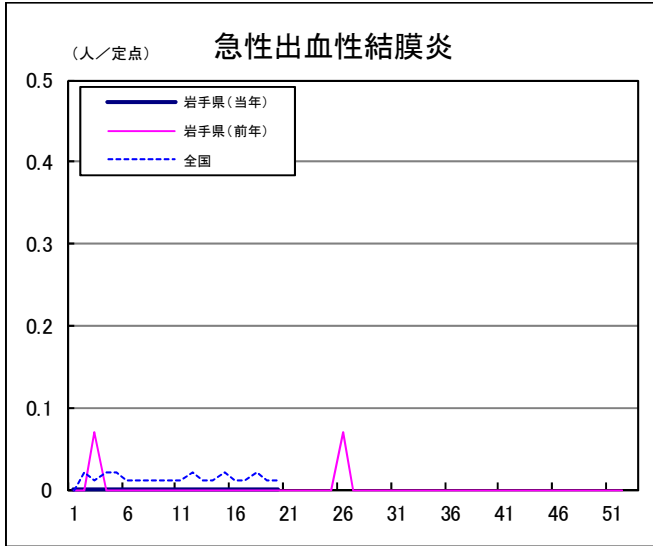
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター (岩手県環境保健研究センター保健科学部内)
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第20週 平成27年5月22日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/jouhou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>